

令和5年度 看護キャリアセンター報告

臨床看護師の研究能力を 高めるための取り組み

教育研究推進WG

はじめに

研究は看護の質の向上に貢献するものと言われている。

日本看護協会の看護者の倫理綱領¹⁾において、「看護者は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する」と述べられており、看護者は科学的根拠に基づく看護を実践し、また専門的知識や技術の開発を行い、看護学に寄与する責任を担っている。

当院看護部は、臨床看護師の研究能力を高めるために主に3つの取り組みを実施している。

当院における研究能力を高めるための取り組み

1.九州大学病院看護研究コース

研究に関する知識やスキルに関する研修を行いながら、指導者による指導も実施（令和5年度は休講）

- 教育研究推進WGが中心となり平成24年度に臨床看護師の看護研究に関する看護実践力向上を目的として開講された。

2.キャリアステーション

研究を進めていく中で、困ったことや進学について相談できる

- 平成25年6月にキャリア相談窓口を開設。大学院修了者や専門看護師を相談員としている。

3.九州大学看護共創・実装研究拠点

今年度より、保健学科と協力して九州大学看護共創・実装研究拠点組織の構築を目指し、実装研究に取り組んでいる

- 教育研究推進WGでは、実装研究の進捗状況に関して情報共有を行っている。

1. 九州大学病院 看護研究コース

教育研究推進WG構成員：

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の教員

九州大学病院看護部の教育担当、大学院を修了した看護職員

【看護研究コースの流れ】

令和3年度

令和4年度

1年目

基礎編



中間発表会



成果発表会



2年目

実践編



中間発表会

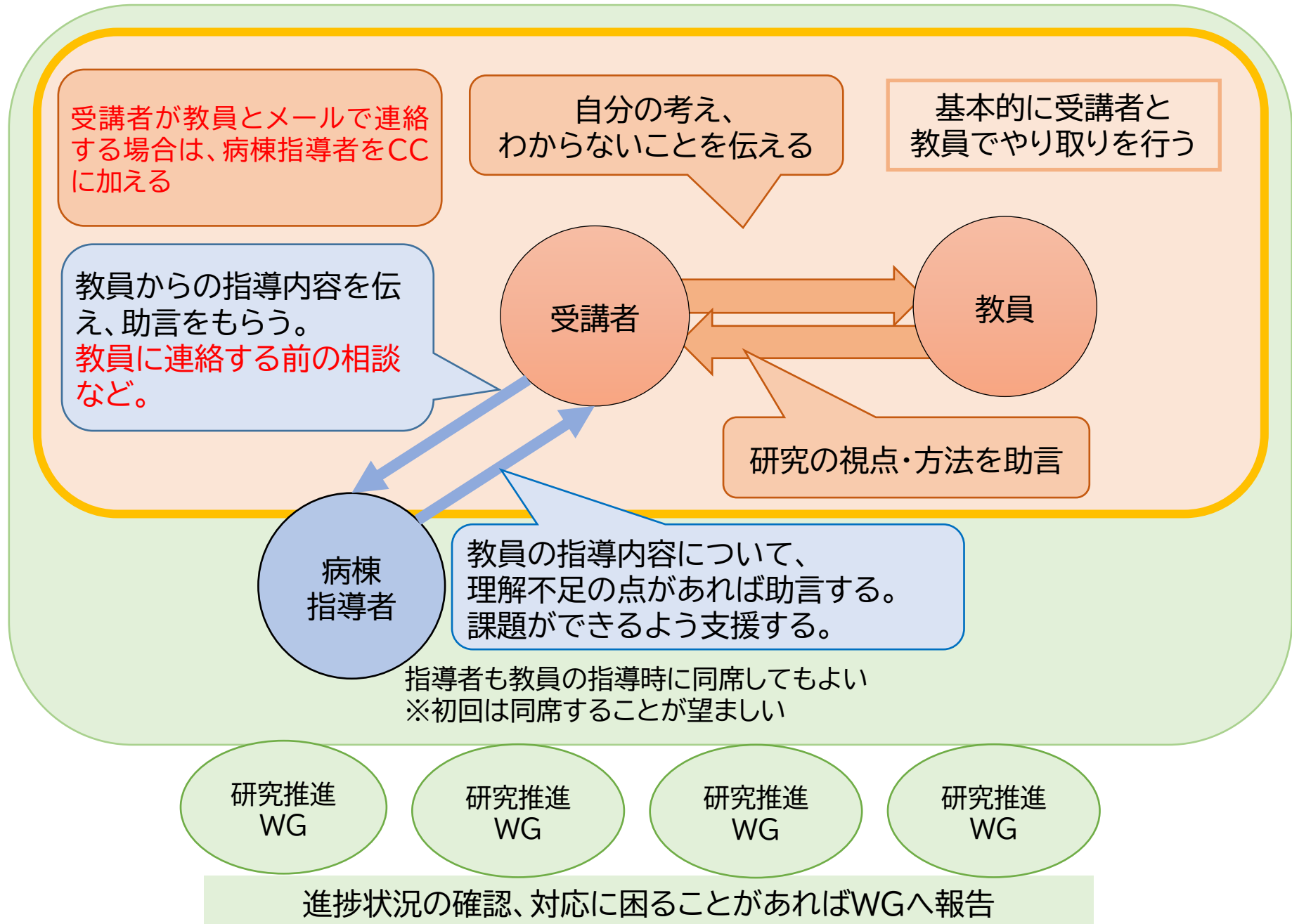


成果発表会



学会発表
論文発表

看護研究コース 受講者支援体制



2. キャリアステーション

- 構 成 員 : 看護師長、専門看護師、大学院修了者
保健学科への人事交流経験者
令和5年度は教育研究推進WGメンバー11名で相談に対応
- 相談内容 : 看護研究の相談 (研究テーマの絞込み、研究計画書の作成など)
進学相談 (大学院進学やスペシャリストを目指す際の情報提供)
- 相談日時 : 令和5年度より、原則第2・4金曜日15~16時

(件)

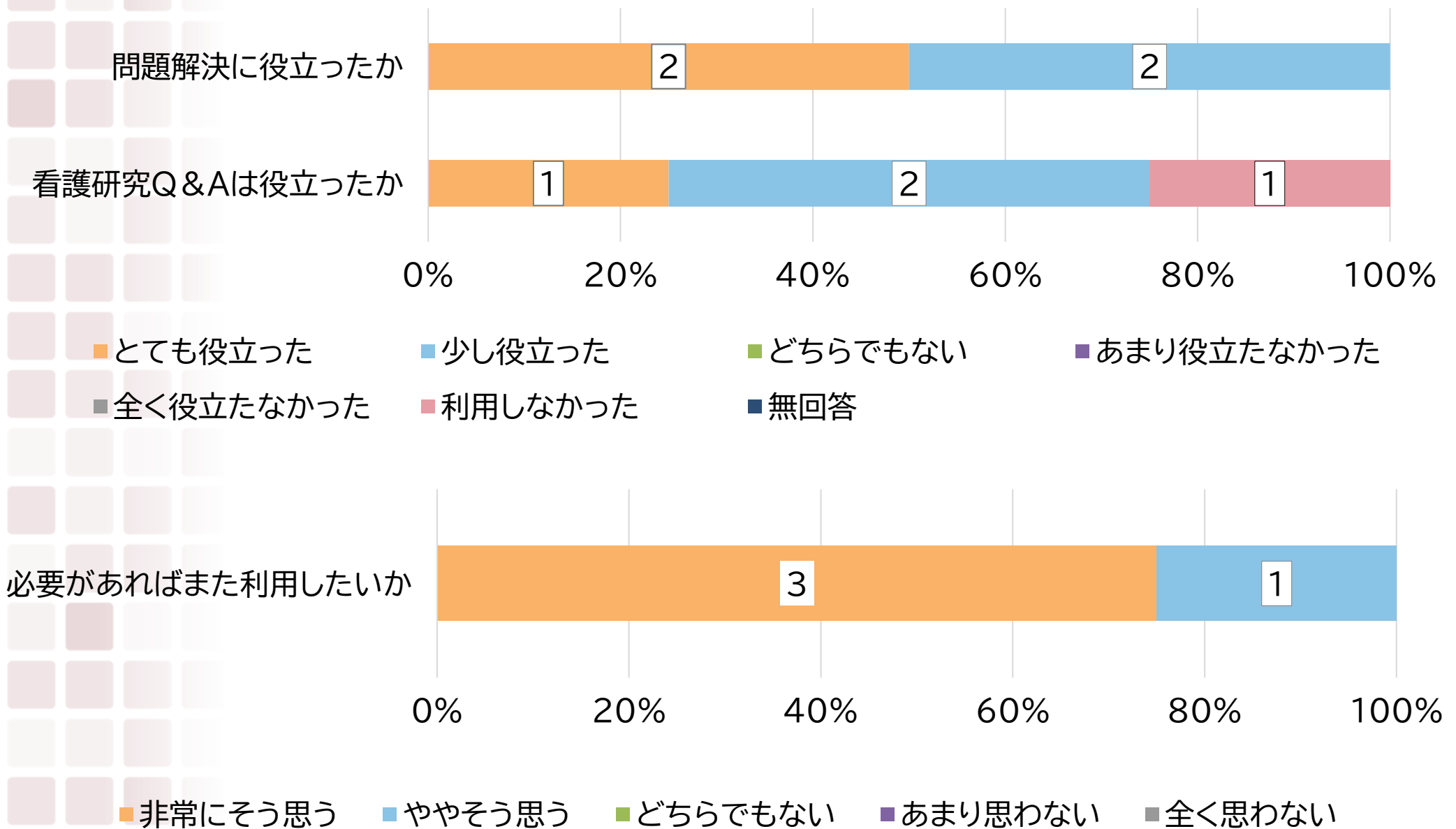
5

0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 令和3年度	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0
■ 令和4年度	0	0	2	1	1	2	3	1	1	1	0	3
■ 令和5年度	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0

月別相談件数(年度比較)

キャリアステーション利用の感想 (n=5)



キャリアステーション利用の感想 (n=5)

【利用者からのアンケート結果（一部抜粋）】

- 相談員の方に話して、倫理のことや足りていない視点に気付くことができ、勉強になった。
- 研究の進め方や文献の選択方法など、始める段階で学びになった。
- スムーズで利用しやすかった。

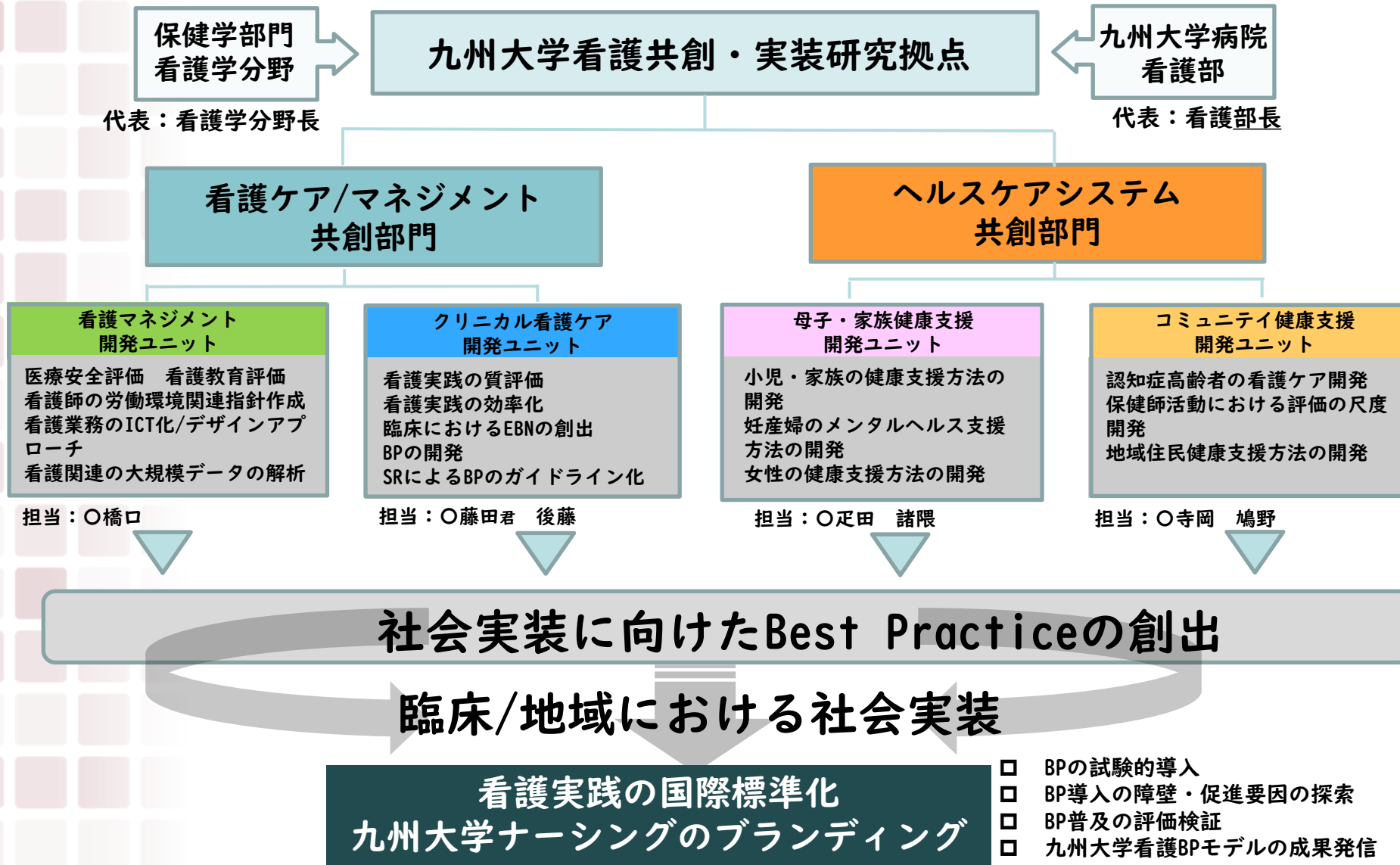
3. 九州大学看護共創・実装研究拠点

今年度は保健学科と協力して九州大学看護共創・実装研究拠点組織の構築を目指している。

「実装研究」とはエビデンスがある介入を社会に普及・実装させるための方策やそのポイントについて科学的に明らかにすることを旨とした研究手法である。

3. 九州大学看護共創・実装研究拠点

九州大学看護共創・実装研究拠点設置構想



3. 九州大学看護共創・実装研究拠点

- 令和5年度は看護研究コースを休講とし、実装研究の試行として2件の実装研究を実施している。

- 個人防護具(PPE)着用による熱ストレス低減にむけた指針作成
- 頭頸部がんを対象とした看護師主導の急性期口腔ケア介入の効果の検討

- 保健学科の講座と病院の部署から数名ずつ選出し協働で研究を行っている。
- どちらの研究も倫理審査の承認を受け、各部署で調査を実施している段階である。
- 調査終了後は結果を分析・考察し、学会発表を目指している。

今後の展望

- キャリアステーションへの相談内容は「研究テーマの絞り込み」が多い傾向が続いており、看護研究の推進のため、相談者のニーズを把握し、それに応じた初学者向けに事前学習の支援について検討していく。
- 今年度、九州大学保健学部門看護学分野の教員と協働して、看護共創・実装研究を開始した。部署で複数の看護師が研究分担者になり、調査においては部署全体でデータ収集をしていくことで、新人看護職員も研究に関わることになり、研究マインドを育てることに役立つと考える。
- 今後は研究テーマを増やす予定であり、多くの部署で実装研究に取り組むことができ看護職員全体の研究スキルの向上が期待できる。